

項目	内容
名称	ノコギリヤシ、ソウパルメット、ノコギリパルメット [英]Saw palmetto、Sabal palm [学名]Serenoa serrulata (Michx.) G.Nichols、Serenoa serrulata (Michx.) Nutt. Ex Schult. Et Schult.、Serenoa repens (W.Bartram) Small.
概要	ノコギリヤシは、大西洋岸平野からメキシコ湾岸定置に分布する、常緑樹であり、中国語名は「棕櫚子」である。果実、種子、新芽が食用とされ、果汁を炭酸飲料として食してきた。薬用部位は果実で、泌尿器疾病や強壮、利尿に効果があるとされてきた。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果実：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質(原材料)」に該当する。</li> </ul> <p>■ 海外情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツのコミッションE(ドイツの薬用植物の評価委員会)では、メディカルハーブに該当する。</li> </ul>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑色精油、不揮発精油、ラウリン酸・リノール酸・オレイン酸などの脂肪酸類、ステロイドサポニン、樹脂、タンニン。成分は、遊離脂肪酸(oleic acid、lauric acid、myristic acid、linoleic acid、palmitic acid、stearic acid、caproic acid、</li> </ul>

caprylic acid、palmitoic acid、linoleic acid、arachidic acid)、脂肪酸のステロールエステル ( $\beta$ -sitosterol、stigmasterol、campesterol) であり、流通品規格は脂肪酸含量85~95%とされる ([PMID:11744467](#))。

・果実は144の水蒸気揮発性成分を含み、40.4%はラウリル酸であった ([PMID:19140098](#))。

#### 分析法

・ノコギリヤシ中のアルコール、ステロール類を、ES-MS法にて分析した報告がある ([PMID:9569764](#))。  
 ・果実から水蒸気蒸留によって得られた成分をGC-MS法によって分析した報告がある ([PMID:19140098](#))。

#### 有効性

ヒ 循環器・  
ト 呼吸器  
で  
の  
評  
価

調べた文献の中に見当たらない。

消化系・肝臓

調べた文献の中に見当たらない。

糖尿病・  
内分泌

調べた文献の中に見当たらない。

生殖・泌尿器

#### メタ分析

・2012年までを対象に11個のデータベースで検索できた無作為化プラセボ対照試験32報 (検索条件：期間 $\geq$ 4週間) について検討したメタ分析において、良性前立腺肥大症の男性によるノコギリヤシ果実の摂取は、夜間の頻尿の低下 (9報)、患者の自己評価による症状の改善 (4報) に関連が認められたが、ばらつきが大きかった。一方、最大尿流量 (6報)、米国泌尿器科学会の症状スコア (2報)、医師による症状改善の評価 (2報)、前立腺の大きさ (2報) に関連は認められなかった ([PMID:23235581](#))。

#### RCT

・良性前立腺肥大症の男性225人 (試験群112人、62.9 $\pm$ 8.0歳、アメリカ) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ノコギリヤシ抽出物160 mg $\times$ 2回/日を1年間摂取させたところ、米国泌尿器科学会症状スコア、最大尿流量率、前立腺の大きさ、排尿後の残尿量、QOL (BPH Impact Index、SF-36)、性機能、血中前立腺特異抗体に影響は認められなかった ([PMID:16467543](#))。

・中等度から重度の良性前立腺過形成の男性225名 (50歳以上、試験群112名、アメリカ) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ノコギリヤシ果実抽出物160 mg $\times$ 2回/日を1年間摂取させたところ、性機能、血中前立腺特異抗原に影響は認められなかった ([PMID:18534327](#))。

・良性前立腺肥大症の男性357名 (試験群176名、平均61.25 $\pm$ 8.72歳、アメリカ) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ノコギリヤシ果実抽出物320 mg/日、640 mg/日、960 mg/日を各24週間ずつ (全72週間) 摂取させたところ、米国泌尿器科学会症状スコア、前立腺症状評価 (BPH Impact Index、IPSS)、夜間頻尿、最大尿流量率、排尿後残尿量、血中前立腺特異抗原 (PSA)、性機能、尿失禁、睡眠の質に影響は認められなかった ([PMID:21954478](#))。

・良性前立腺肥大症の男性325名 (試験群159名、平均61.47 $\pm$ 5.20歳、中国) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ノコギリヤシ抽出物320 mg/日を24週間摂取させたところ、摂取後24週間までの前立腺症状評価 (IPSS) スコア、最大尿流量の増加が認められた。一方、前立腺の大きさ、性機能評価に影響は認められず、排尿後尿残量の増加が認められた ([PMID:30880074](#))。

・良性前立腺肥大症の男性93名 (試験群46名、平均62.1 $\pm$ 1.2歳、中国) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ノコギリヤシ抽出物320 mg/日を12週間摂取させたところ、前立腺症状評価 (IPSS) スコア、QOL、最大尿流量率、性機能評価に影響は認められなかった ([PMID:12887481](#))。

・健康な成人男性40名（試験群20名、平均52.4±6.3歳、日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ノギリヤシ果実抽出物320 mg/日を12週間摂取させたところ、前立腺症状評価（IPSS（総合スコア、QOLスコア））、尿失禁QOL（KHO）、過活動膀胱評価（OABSS）に影響は認められなかった（2019286849）。

脳・神経・感覚器 調べた文献の中に見当たらない。

免疫・がん・炎症 調べた文献の中に見当たらない。

骨・筋肉 調べた文献の中に見当たらない。

発育・成長 調べた文献の中に見当たらない。

肥満 調べた文献の中に見当たらない。

その他 調べた文献の中に見当たらない。

#### 参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳  
 (81) Herbal Medicines Forth edition (Pharmaceutical Press)  
[\(PMID:9569764\) Anal Chem., 70: 1544-1554, 1998.](#)  
[\(PMID:11489067\) J Intern Med. 2001;250\(2\):167-9.](#)  
[\(PMID:16467543\) N Engl J Med. 2006 Feb 9;354\(6\):557-66.](#)  
[\(PMID:16800417\) South Med J. 2006 Jun;99\(6\):611-2.](#)  
 (102) Curr Ther Res. 1994;55(7):776-85.  
[\(PMID:10915398\) Adv Ther. 1999 Sep-Oct;16\(5\):231-41.](#)  
[\(PMID:11054432\) J Clin Oncol. 2000 Nov 1;18\(21\):3595-603](#)  
[\(PMID:18534327\) Complement Ther Med. 2008 Jun;16\(3\):147-54.](#)  
[\(PMID:19921983\) Scand J Urol Nephrol. 2009;43\(5\):377-82.](#)  
[\(PMID:19140098\) Planta Med. 2009 Feb;75\(2\):184-6.](#)  
[\(PMID:20573093\) Br J Clin Pharmacol. 2010 May;69\(5\):558-60.](#)  
[\(PMID:20120986\) Bol Asoc Med P R. 2009 Jul-Sep;101\(3\):48-50.](#)  
[\(PMID:20531057\) South Med J. 2010 Jul;103\(7\):683-5.](#)  
[\(PMID:21954478\) JAMA. 2011 Sep 28;306\(12\):1344-51.](#)  
[\(PMID:22768426\) J UOEH. 2012 Jun 1;34\(2\):193-9.](#)  
[\(PMID:23253958\) J Urol. 2013 Feb;189\(2\):486-92.](#)  
[\(PMID:24730468\) J Pharm Pharmacol. 2014 Sep;66\(9\):1339-46.](#)  
[\(PMID:21867545\) J Med Case Rep. 2011 Aug 25;5:414.](#)  
[\(PMID:23027164\) Pediatrics. 2012 Nov;130\(5\):e1374-6.](#)  
[\(PMID:25430798\) Xenobiotica. 2015 May;45\(5\):406-12.](#)  
[\(PMID:26043832\) Pharmacology. 2015;96\(1-2\):41-3.](#)  
[\(PMID:20218935\) Xenobiotica. 2010 Apr;40\(4\):245-54](#)  
[\(PMID:20666626\) Xenobiotica. 2010;40\(10\):663-669.](#)  
 (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)  
 (103) 健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規  
 (104) 学名でひく食薬区分リスト 薬事日報社 佐竹元吉 監修  
 (2019286849) 応用薬理. 2019;95(5-6):101-11.  
[\(PMID:23235581\) Cochrane Database Syst Rev. 2012 Dec 12;12\(12\):CD001423.](#)  
[\(PMID:30880074\) Urology. 2019 Jul;129:172-179.](#)  
[\(PMID:12887481\) BJU Int. 2003 Aug;92\(3\):267-70.](#)  
[\(PMID:14663456\) Clin Pharmacol Ther. 2003 Dec;74\(6\):536-42.](#)  
[\(PMID:15536458\) Clin Pharmacol Ther. 2004 Nov;76\(5\):428-40.](#)  
 (2016400256) 日本臨床免疫学会会誌. 2016;39(4):399.